

6月上旬出荷ベゴニアの品種特性および露地観賞性評価

山本陽平・岡澤立夫

(園芸技術科)

【要 約】ベゴニアの6月上旬出荷作型では出荷時には花数が多く揃いの良い「スーパークール ブラッシュ」が有望である。露地定植では「スーパーオリンピア レッド」が、7月下旬まで花壇の観賞性を保つ上で有望である。

【目 的】

ベゴニアは春～秋の花壇の定番品目である。花数が多く、観賞期間が長いことから、夏季花壇での需要拡大が期待されている。そこで、6月上旬出荷作型の出荷時の品種特性および露地定植後の観賞性を調査し、7月を通じて観賞性を維持できる夏花として有望な品種を明らかにする。

【方 法】

2020年3月10日にベゴニア15品種(表1)を播種用培土(TM-2)を充填した406穴セルトレイに播種し、同年4月23日に3.5号黒ポリポットへ1本鉢上げした。鉢上げ用土は赤土:腐葉土:ピートモス=5:3:2(容積比)の混合用土とし、基肥は用土100Lあたり被覆複合肥料14-12-14(エコロング424-100タイプ)=300g, 化成肥料6-40-6(マグアンプK中粒)=200g, 過リン酸石灰0-17-0=250g(用土100L当たり成分量でN=54g, P₂O₅=54g, K₂O=54g)を予め施用した。6月5日に露地定植を行い、以降は適宜頭上灌水による管理を行いながら、観賞性の評価を行った。

【成果の概要】

1. 出荷時の品質については、株張や株高の品種内差は小さく、花数が多く揃いの良い「スーパークール ブラッシュ」や「スプリントプラス ホワイト」が有望であった(表1)。
2. 定植後の株張や株高の推移は、概ね全ての品種で同様であり(データ略)、観賞性に関わる指標としては、花卉の占有面積が適切であると考えられた。
3. 株の生存数は、全ての品種で7月中旬までは大きな変動がなかったものの、7月下旬にかけて暑熱や高湿により多くの品種で枯死が発生し、観賞性が乏しくなった。花卉占有面積については、定植時には品種で大きな差はなく、6月上旬から7月中旬にかけて「F₁ トップスピン スカーレット」や「スプリントプラス ホワイト」などで顕著に面積が増大したが、枯死や落花により以降の7月下旬までに大きく減少した。また、「スーパーオリンピア レッド」や「F₁ フィオナ ローズ」では、7月中旬での花卉の占有面積は「F₁ トップスピン スカーレット」などに劣るものの、7月下旬でも全ての株が生存し、花占有面積も増大しており、夏季を通じた植栽への適性が高かった(表2, 図1)。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 今試験では7月下旬までの観賞性を念頭に評価を行ったが「スーパーオリンピア レッド」などの品種については、8月以降の観賞性についても更なる観察が必要である。

表1 出荷時の品質評価

品種	株張 (cm)	株高 (cm)	花数 (輪)	揃い ^a	評価 ^b
F ₁ トップスピン スカーレット	19.2	12.0	7.1	4	
F ₁ トップスピン ピンク	20.2	13.1	8.8	4	
F ₁ トップスピン ホワイト	20.9	13.3	13.9	5	○
F ₁ フィオナ ピンク	19.4	12.3	9.3	5	
F ₁ フィオナ ホワイト	21.0	12.5	9.2	5	
F ₁ フィオナ レッド	20.0	13.8	8.9	3	
F ₁ フィオナ ローズ	19.1	12.4	10.8	5	○
スーパーオリンピア ホワイト	18.8	13.9	4.5	4	
スーパーオリンピア レッド	20.6	13.8	5.7	5	
スーパークール ピンク	20.0	12.3	9.3	4	
スーパークール ブラッシュ	20.6	11.9	10.8	5	○
スーパークール ホワイト	20.7	13.4	14.9	3	
スーパークール レッド	21.3	13.2	8.2	5	
スプリントプラス ホワイト	18.8	12.5	11.7	5	○
スプリントプラス レッド	21.5	12.0	12.2	3	

注) 生育調査は6月8日に行った。

a) 目視による評価で、12株の揃いに対し0～5点をつけた。

b) 花数について輪数を基に「<7.5: 0点, 7.6~10.0: 1点, 10.1<: 2点」を設定し、揃いの点数との合計が7点のものを○とした。

表2 100 cm²あたりの花弁占有面積 (cm²) の推移に基づく露地観賞性の評価

品種	生存株数 ^a (株)			評価 ^b	花弁占有面積 (cm ² /100cm ²)				評価 ^c	総合評価 ^d
	6月24日	7月16日	7月30日		6月8日	6月24日	7月16日	7月30日		
F ₁ トップスピン スカーレット	12	12	6		6.6	24.6	47.0	6.5		
F ₁ トップスピン ピンク	12	12	10	○	8.5	26.5	23.8	5.5		○
F ₁ トップスピン ホワイト	12	10	5		10.6	23.1	13.5	3.8		
F ₁ フィオナ ピンク	12	11	9		11.3	16.1	29.0	14.4	○	○
F ₁ フィオナ ホワイト	12	10	2		11.1	20.8	20.9	6.3		
F ₁ フィオナ レッド	11	11	11	○	10.5	28.6	33.1	28.3	○	◎
F ₁ フィオナ ローズ	12	12	12	○	7.3	11.3	17.0	20.1	○	◎
スーパーオリンピア ホワイト	12	12	7		3.6	23.0	44.8	24.8		
スーパーオリンピア レッド	12	12	12	○	5.7	25.3	30.3	31.9	○	◎
スーパークール ピンク	12	10	7		11.8	30.7	6.6	10.7		
スーパークール ブラッシュ	12	12	4		12.1	26.4	44.3	10.7	○	○
スーパークール ホワイト	12	12	5		12.0	10.5	20.4	11.6	○	○
スーパークール レッド	12	10	5		8.6	32.2	30.0	2.0		
スプリントプラス ホワイト	12	12	8		9.3	20.6	45.8	19.3	○	○
スプリントプラス レッド	11	10	7		13.2	15.6	13.6	6.7		

注) 花弁占有面積は、撮影した写真を基に Adobe Photoshop を用いて算出した。

a) 12株中の生存株数 b) 7月30日時点で生存株数が10以上の品種を○とした。 c) 定植直後(6月8日)を除く全ての期間で花弁占有面積が10 cm²以上を維持している品種を○とした。 d) 生存株数、花弁占有面積両方の評価が○のものを◎、どちらか一方が○のものを○とした。

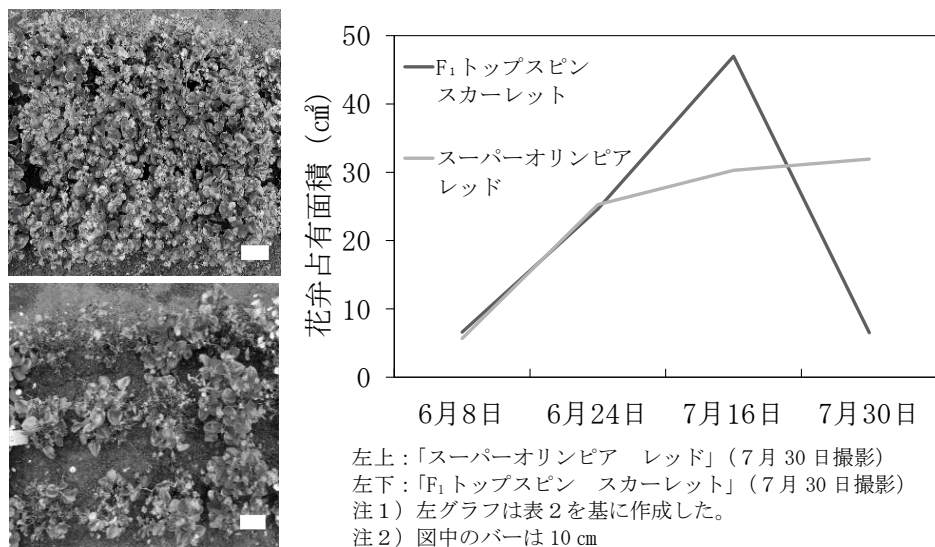


図1 花弁占有面積の推移